

令和6年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立大森東中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・平面図形において、一部目標値を上回った。
- ・変化と関係の理解は目標値であった。
- ・

(2) 課題

- ・どの観点においても目標値を下回っているものが多い。
- ・計算を苦手とする生徒が多い。
- ・関数やデータの読み取りの理解が不十分である生徒が多い。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	「変化と関係」の領域は概ね目標値に達しているが、「数と計算」の領域は理解度が低い。		
第2学年	立式を行うことや文字式などを用いて説明をすること、いくつかの数量の関係を考えることを特に苦手にしている。	「基礎」「活用」ともにすべての観点において目標値を下回っている。しかし、平面図形では一部目標値を上回るとの結果が得られた。 (第1学年時)	
第3学年	「式の計算」や「連立方程式の計算」は概ね目標値に達しているが、「図形」の領域は理解度が低い。	どの領域・観点でも前年度より正答率が下がってしまっている。しかし、平面図形は目標値を上回っている。	「平面図形の合同」や「平面図形の移動」の習熟度が高く、「小数・分数の計算」や「比例・反比例」の習熟度が低い。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
分数の計算や、体積、割合に関する問題において理解が不十分であるといえる。	分数を使う文章題での立式や、グラフの読み取りを苦手としている生徒が多い。	図や表から正しくデータを読み取ったり、活用したりすることが苦手である。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
関数、およびデータの分析では目標値を達成している問	1次方程式の立式と文字式を用いた説明の正答率が特	数量の関係を不等式で表すことと作図については目標

題がなく、非常に苦手としている。	に低く、苦手としている。	値を達成できているが、他の問題には課題が見られる。
------------------	--------------	---------------------------

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1次関数において、理解が不十分であるといえる。	連立方程式の文章題での立式や、図形の証明を苦手としている生徒が多い。	箱ひげ図やグラフから正しくデータを読み取ったり、活用したりすることが苦手である。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
まずは整数における計算の理解を図る。その上で、通分と約分の意味の違いを意識させて分数の計算を促す。小学校の内容との関連を意識して指導する。	立式した式の各項および式全体の意味を理解することを促す。また、度数分布表をヒストグラムで表し、特徴を読み取る練習を行うことで、理解を深める。	間違えた問題には、今後間違えないようにするためにのポイントを書くことで、自己調整学習ができるようになるよう促す。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
関数とデータの分析を特に苦手としているため、知識の定着を図る	証明問題などの説明をする問題を特に苦手としているため、定着を図る。	様々な課題に取り組ませることで、ねばり強く取り組む姿勢を育てる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1次関数における知識・技能として「座標を求める・式を求める」という演習を行い、技能の定着を図る	文章から立式する練習を行い、関係を表す式を表せるように技能を深める。	間違えた問題には、今後間違えないようにするためにのポイントを書くことで、自己調整学習ができるようになるよう促す。